

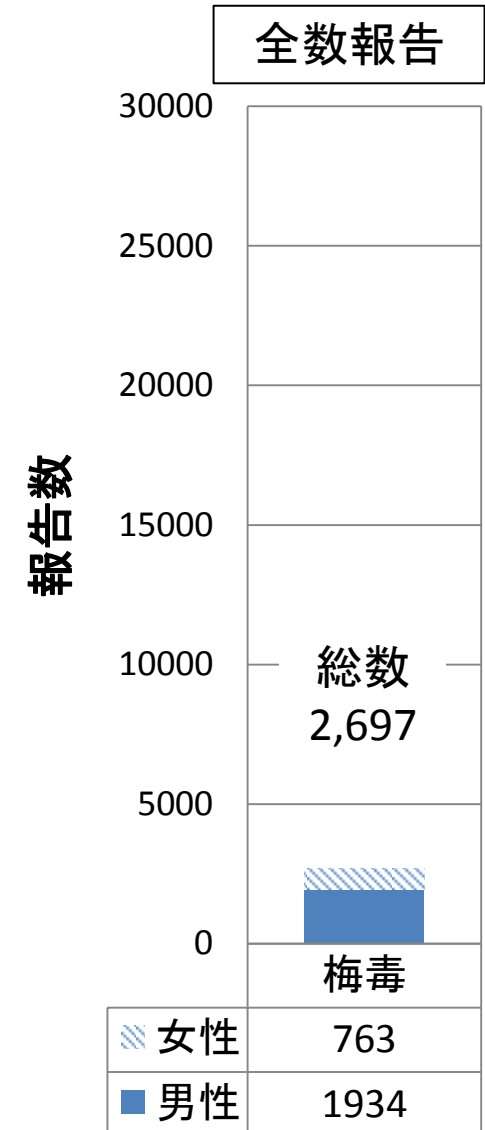
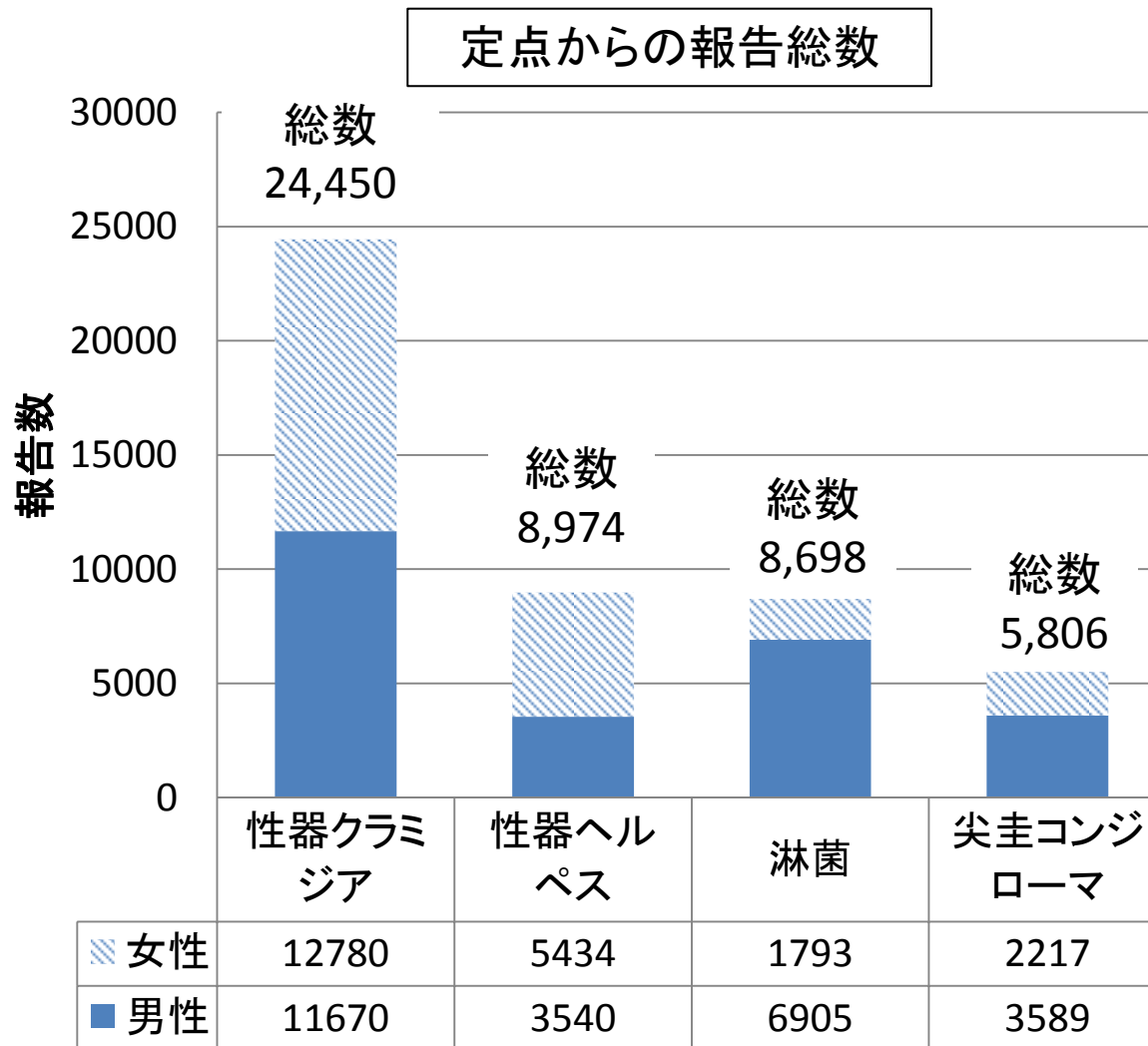
性感染症の発生動向と対策の現状

平成28年12月20日
健康局結核感染症課

日本の性感染症の発生動向(1)

2015年 性感染症定点疾患及び梅毒の報告数 (梅毒のみ全数報告、その他は定点からの報告総数)

「感染症発生動向調査」
※2015年の報告数については、概数
(2016年3月現在)



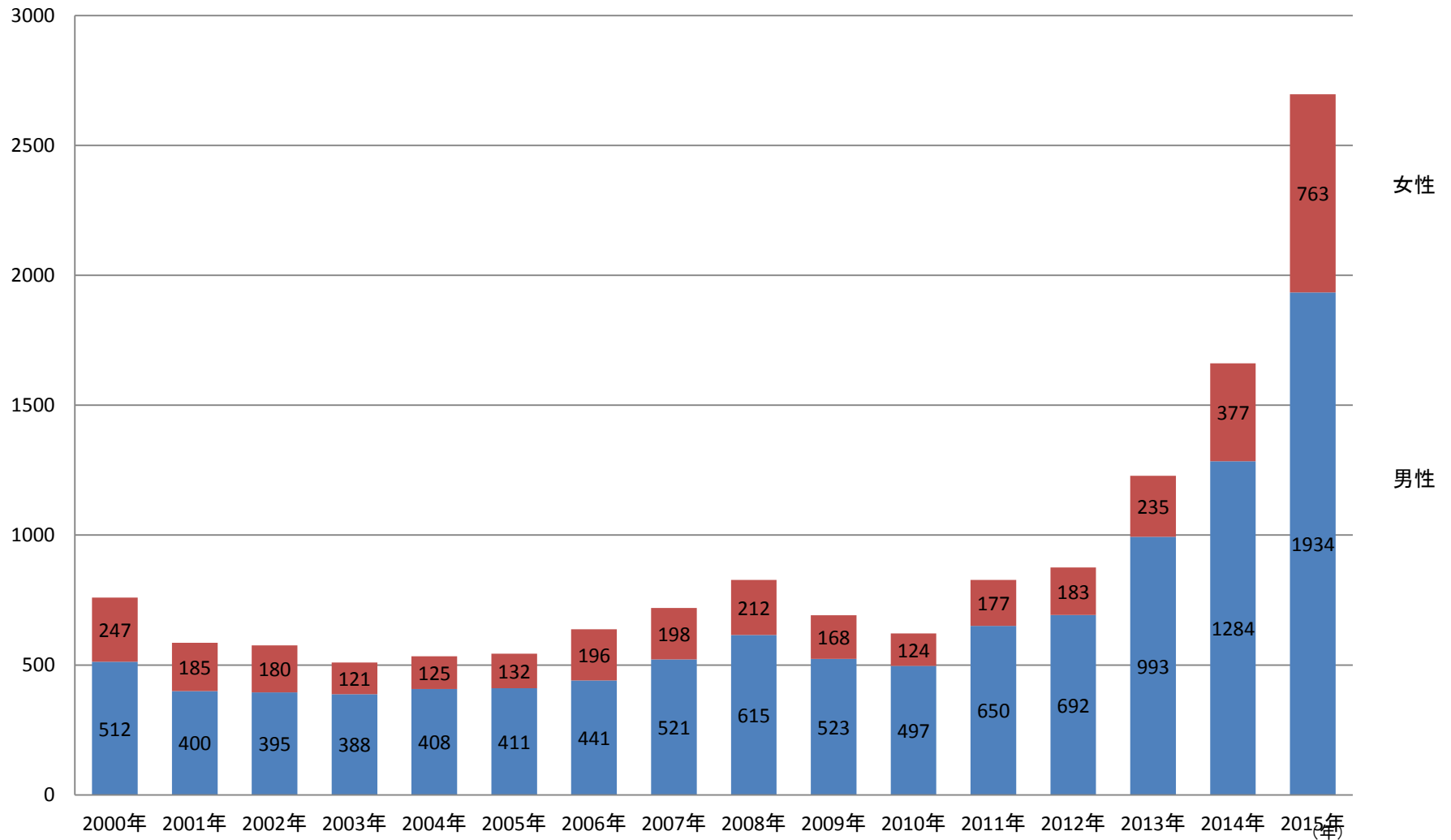
※性器クラミジア、淋菌、性器ヘルペス、尖圭コンジローマは同一定点医療機関からの報告数
性感染症の定点医療機関数は約970カ所(月ごとに変動あり)

日本の性感染症の発生動向(2)

(件)

梅毒報告数年次推移(男女別) (2000年～2015年)

「感染症発生動向調査」
※2015年の報告数については、概数
(平成2016年3月現在)



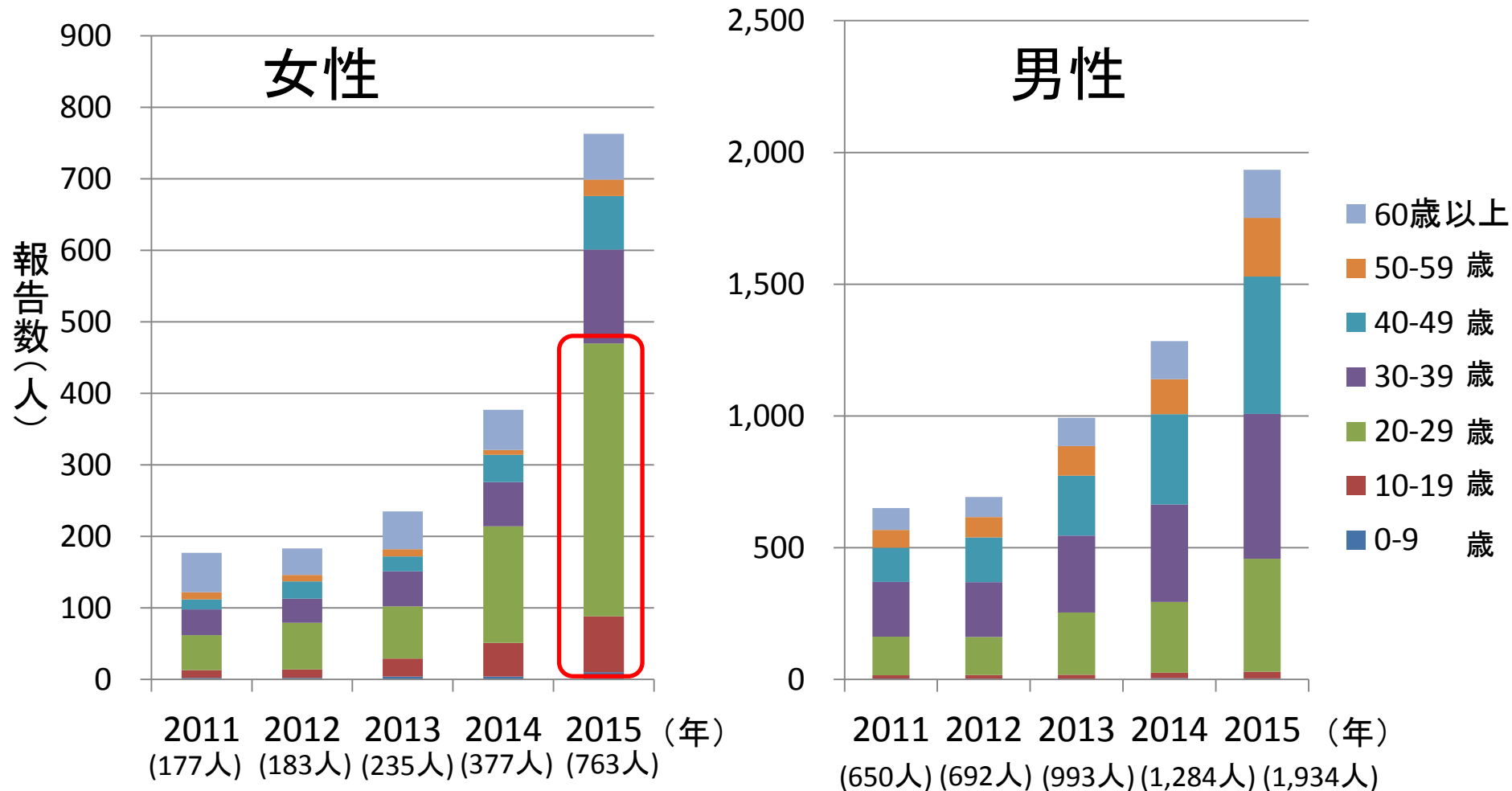
2010年以降、梅毒症例の報告数は増加を続けており、
そのうち女性の占める割合も2013年以降増加しています。

日本の性感染症の発生動向(3)

梅毒患者の性別年齢群別報告数

(2011年第1週-2015年第53週)

「感染症発生動向調査」
※2015年の報告数については、概数
(2016年3月現在)

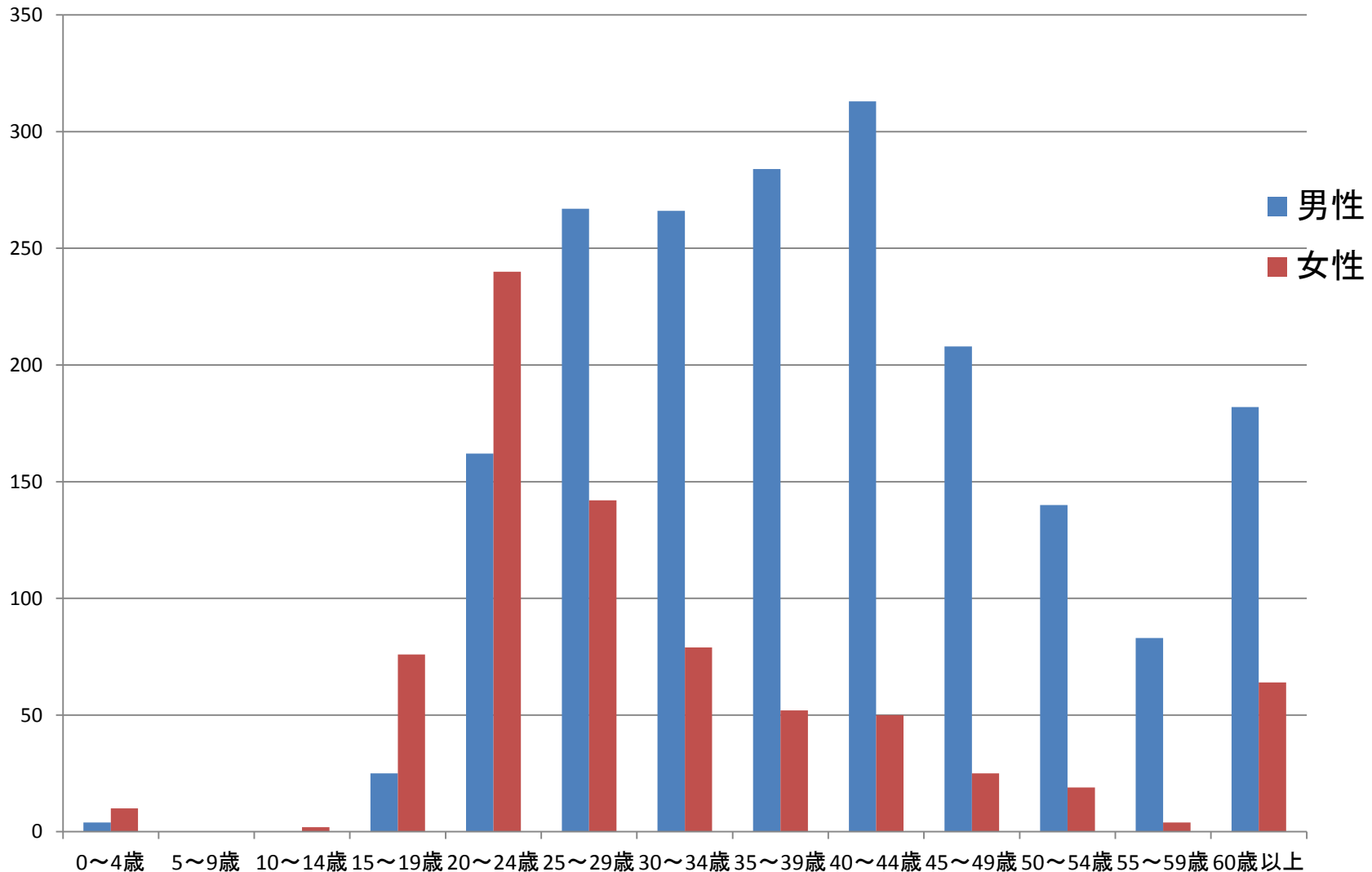


近年、若い女性の梅毒患者が著増

日本の性感染症の発生動向(4)

年齢別にみた梅毒報告数(2015年)

「感染症発生動向調査」
※2015年の報告数については、概数
(2016年3月現在)



男性は20～40歳代、女性は20歳代の報告が多い。

日本の性感染症の発生動向(5)

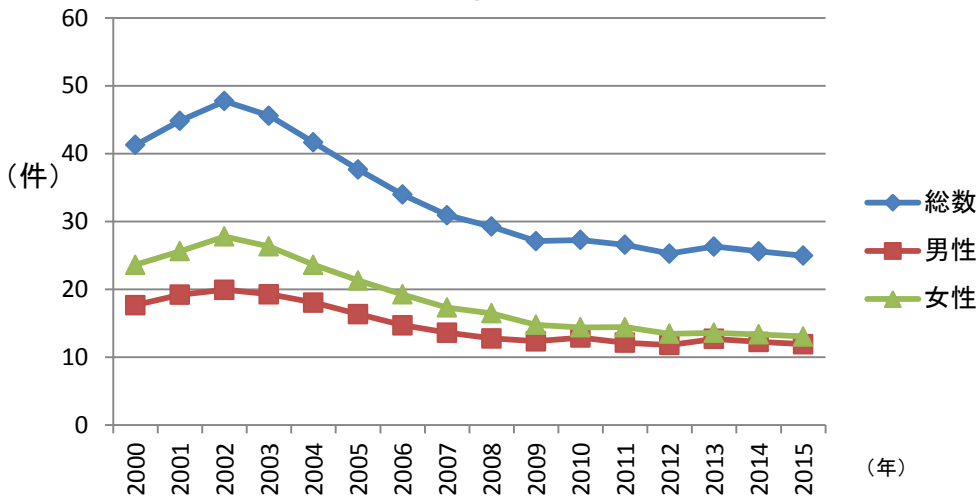
定点あたり報告数年次推移(男女別)

「感染症発生動向調査」

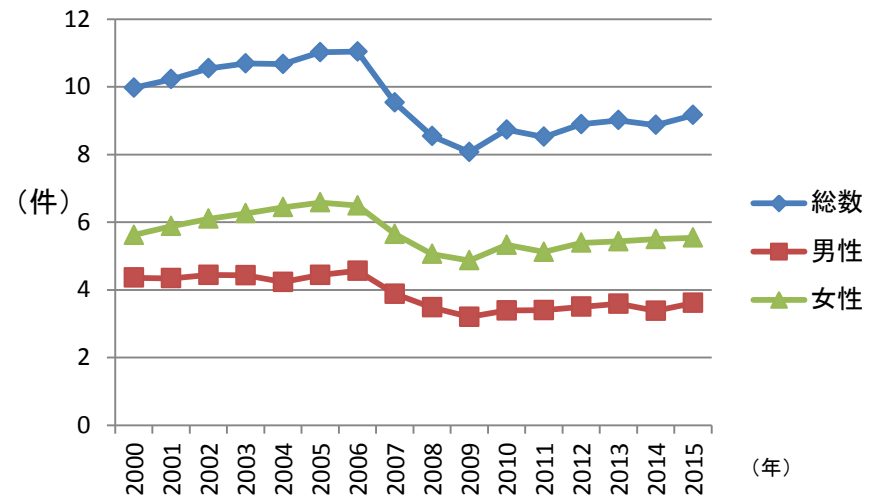
※2015年の報告数については、概数(2016年3月現在)

(2000年～2015年)

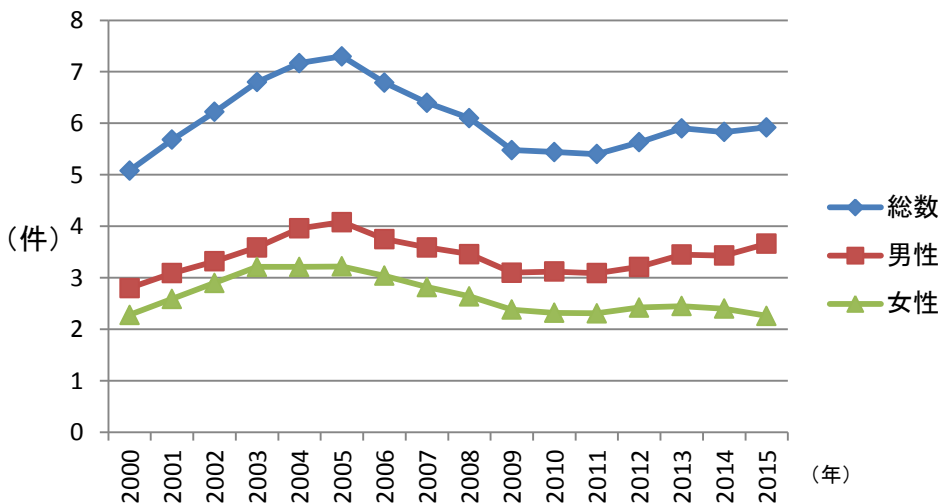
性器クラミジア感染症



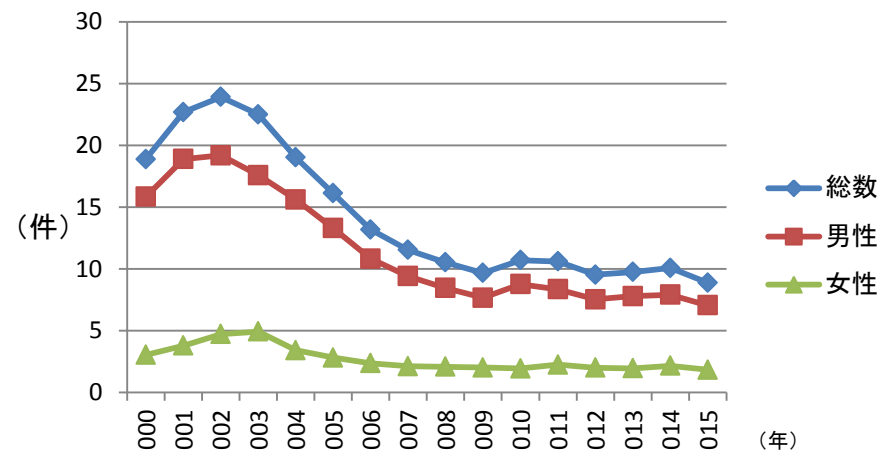
性器ヘルペスウイルス感染症



尖圭コンジローマ



淋菌感染症



性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の定点医療機関あたりの報告数は、ここ数年おおむね横ばいで推移している。

性感染症対策の現状

性感染症に関する特定感染症予防指針

- 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、「感染症法」という。)第11条において、感染症のうち、特に総合的に予防のための施策を推進する必要があるものとして厚生労働省令で定めるものについて、当該感染症に係る原因の究明、発生の予防及びまん延の防止、医療の提供、研究開発の推進、国際的な連携その他当該感染症に応じた予防の総合的な推進を図るための指針を作成し、公表するものとされている。
- 特定感染症予防指針を作成する感染症として、厚生労働省令において、性感染症が規定されている。
- 「性感染症に関する特定感染症予防指針」の直近改正は、平成24年1月19日である。

【指針の項目】

第一 原因の究明	第四 研究開発の推進
第二 発生の予防及びまん延の防止	第五 国際的な連携
第三 医療の提供	第六 関係機関等との連携の強化等

性感染症対策の現状～第一 原因の究明～

性感染症に関する発生動向調査

● 梅毒

感染症法に基づき**全数届出**が必要な5類感染症。
診断した医師は7日以内に保健所に届出。



● 性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症

感染症法及び感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、
指定届出機関(定点)から月ごとに届出が必要な5類感染症。
指定届出機関は、月ごとに保健所に届出。

性感染症の指定医療機関数は980カ所(平成27年)

産婦人科、産科若しくは婦人科(産婦人科系)、泌尿器科又は皮膚科を標榜する医療機関(主として各々の標榜科の医療を提供しているもの)を性感染症定点として指定。

性感染症対策の現状～第二 発生の予防及びまん延の防止～

性感染症に関する普及啓発の例

各自治体・保健所においては、地域の実情に応じ、性感染症に関する正しい知識の普及、検査の受検勧奨等を実施。

(例：啓発キャンペーンの機会を活用した無料検査の実施等)

厚生労働省では、毎年、性感染症に関するポスター等を作成し、関係機関へ配布すること等により、国民に対する正しい知識の普及啓発を実施。

(平成28年度は性感染症の予防啓発で性の健康医学財団とも協力し、「美少女戦士セーラームーン」とのポスター、リーフレットを作成、公表、配布 等)

STI(性感染症)・HIVは早期発見・治療が大切です。
検査・相談できる機関を検索してみよう。▶▶▶

HIV検査相談マップ
全国HIV・エイズ・性感染症検査・相談窓口情報サイト
<http://www.hivkensa.com/>

コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができます。

主な性感染症とその症状

梅毒	痛みのない潰瘍が性器に形成され、治療せずにいると全身の皮膚・リンパ節の腫瘍、さらには数年～数十年後に血管や神経の障害等、全身に多様な症状をきたすことがあります。初期の症状は発熱や頭痛、関節の腫痛など現れる可能性があります。
淋菌感染症・性器クラミジア感染症	男性では尿道痛、尿道からの分泌物、女性ではおりものの変化や下腹部の痛みといった症状をきたすことがありますが、感染しても無症状な場合も多いです。男性、女性の両方でも不妊の原因になることがあります。淋菌と性器クラミジアは同時に感染していることが多いです。
性器ヘルペスウイルス感染症	男性は、女性に感染を伴う場合が多い。痛みを伴うものもあります。一度かかると治癒しても繰り返し感染することがあります。女性の場合は、妊娠・出産時の感染が胎児・産婦に合併症を引き起こすことがあります。
ヒトヒトローマウイルス感染症	性感染症のある者の半数以上が一度は感染するとされています。感染はほとんど無症状で、後々タイプがあり、一部のウイルスは、性器に限りませんが全身にコンジローマの原因となったり、子宮頸がんや喉がんなどの原因になったりします。
HIV・エイズ	HIVに感染すると、初期段階にかかりやすいような症状が現れることがあります。その後、発症症状のないまま数年～十数年かけて、次第に免疫機能が低下し、さまざまな感染症（肺病、結核、口腔カンジダ症等）などを発症します。早期に治療を開始し、適切な治療を受ければ、感染後とはほとんど同じような生活を送ることが可能です。HIV感染は検査でわかります。

コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができます。

HIV検査相談マップ 全国HIV・エイズ・性感染症検査・相談窓口情報サイト

「ごあいさつ」「検査・相談担当者の方へ」「お問い合わせ」「for foreigners」

検査・相談所を探す 検査イベント情報 HIV・エイズって何? HIV検査まめ知識 HIV検査Q&A お役立ちリンク

Q 地図から探す

全国のHIV・エイズの検査・相談窓口を検索!

北海道

Q 条件から探す

検査施設名

都道府県

☐ 検査結果を即日通知

☐ 土日検査が可能

! 検査イベント情報

2016年12月4日開催

岩手県中部保健所・北上・即日検査☆2016年12月4日(日)・無料・匿名☆

2016年12月15日開催

兵庫県 世界エイズデー



性感染症対策の現状～第三 医療の提供、第五 国際的な連携、第六 関係機関等との連携の強化～

第三 医療の提供

都道府県等において実施される性感染症に関する講習会や正しい知識を普及させるためのポスター・リーフレットの作成経費についての補助を行っている。

性感染症に関する特定感染症予防指針に基づき、保健所において、性感染症検査(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症、梅毒の5疾患)を実施し、性感染症検査前・後に相談指導をするための補助を行っている。 等

第五 国際的な連携

WHO、IPPF、UNFPA等の国際機関(外務省管轄の機関を含む)に対する拠出を通じ、国際的な感染拡大の抑制へ貢献。

第六 関係機関等との連携の強化

自治体、NPOと連携し、検査機会の充実を図る等行っている。



主催: 大阪府/厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

協力: 医療機関

NPO法人 CHARM/MASH大阪/community center dista

性感染症対策の現状～第四 研究開発の推進～

性感染症に係る主な研究

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業

性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究
(平成27年度～29年度 研究代表者:荒川 創一)

子宮頸がんワクチン接種後に生じた症状に関する治療法の確立と情報提供についての研究
(平成28年度～30年度 研究代表者:池田 修一)

梅毒感染リスクと報告数の増加の原因分析と効果的な介入手法に関する研究
(平成28年度～29年度 研究代表者:大西 真)

子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する疫学研究
(平成27年度～29年度 研究代表者:祖父江 友孝)

新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業

薬剤耐性性感染症の分子疫学解析手法の確立と薬剤耐性化機構に関する研究
(平成27年度～30年度 研究代表者:大西 真)

培養細胞感染系が確立されていない病原体の新たな感染複製系等の開発とそれを用いた診断・治療・予防法の開発に向けた研究
(平成28年度～30年度 研究代表者:石井 孝司)